



一般社団法人 全麺協

2025.1.29

ニュースフラッシュ 第44号

ニュースで伝える全麺協の今

発行:全麺協ニュースフラッシュ編集グループ
編集責任者:総務局長 原 秀夫

中谷信一理事長 年頭のご挨拶



皆様新年明けましておめでとうございます。穏やかな令和7年の新春を迎え、会員皆様並びにそば道有段者の皆様のご健康とご繁栄を心からお慶び申し上げます。

今年の元日午後4時10分ごろ、能登半島で最大震度7を観測する大地震が発生し、建物の倒壊や津波の被害などで甚大な災害が発生、更に能登地方では9月に集中豪雨が追い打ちをかけるなど極めて厳しい自然災害の年でありました。

引続き地震による被災地域や被災者の一日も早い復旧復興を願うものです。

令和6年は、総じて政治・経済ともに国内外においても多事多難な記憶に残る出来事の多い年でありました。

さて、全麺協の会員皆様並びにそば道有段者皆様には、昨年中は、そば道段位認定に関わる諸事業並びに全麺協発展につきまして、深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

顧みますと、昨年は、各段位認定審査会及び第4回一般公開そば大学in尾道や、北海道支部創立20周年記念行事、首都圏支部千葉県そば推進協議会創立20周年記念行事など、五支部ともに多忙な一年ではありましたが、おかげをもちまして大きな成果を収め推移することができ、新しい年を迎えられますことは、私ども全麺協の大きな喜びとするところであります。

しかしながら、少子高齢化や急速な社会状況の変化に伴い、そのような影響から近年は、「そば道段位認定」審査への新規参加者の減少傾向が深刻な課題となっております。

このことについては、本部支部が一丸となって、有段者登録数2万人を目標に掲げ早期実現に向かって取り組む所存であります。

昨年より協議を重ね実施することに致しました、令和7年度新規事業として「第1回世界手打ちそば名人グランプリin富山」並びに「第2回そば道五段位全国大会in富山」を令和7年10月25日(土)・26日(日)に盛大に開催する計画としております。

これには、全麺協の総力を結集し大きな成果を上げられますよう、また、全麺協を大きく前進発展に寄与する事業として、全麺協に関わる皆様方の多くのお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

終わりに、全麺協の発展と皆様方の御健康と御多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



支部長 年頭のご挨拶

北海道支部長 守田秀生

全麵協会員の皆様には、ご健勝で新年を迎えられたことと存じます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、5月11日に、中谷理事長、山本副理事長、芳田東日本支部長、森中日本支部長、篠原西日本支部長のご臨席をいただき北海道支部創立20周年式典並びに祝賀会を開催することができました。長きに亘り支部活動を支えていただいた方々に謝意を表し、今後の支部活動をさらに発展させていくべく、会員一同決意を新たにいたしました。

また、昨年は、女性青年部を新設し、女性や若い世代の方に全麵協を広げていく一歩を踏み出しました。また、情報の公開と周知のため、支部ホームページをリニューアルし、広報活動の充実に努めました。

本年も段位認定受験者の減少傾向は続くと思われませんが、全麵協設立の原点に返って、地域貢献活動を粘り強く進め、仲間の輪を広げ、受験者増に努めてまいります。

北海道支部が念願しておりました「そば道全国名人大会」が本年10月25日に「世界手打ちそば名人グランプリ」と銘打って富山県で開催が決定したことは誠にうれしい限りです。

北海道支部としましても、全麵協事業に積極的に参加し、全国の皆さんと交流を深め、「そば道」に邁進してまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

東日本支部長 芳田時夫

あけましておめでとうございます。

新支部が分離発足して4年が経過して、新たな組織体制で運営しており、地域振興と支部執行体制の強化に今後とも取り組んでいきたいと思ひます。

全麵協は創立30年を経過して新たな発展の基礎として「世界手打ちそば名人グランプリin富山」「そば道五段位全国大会in富山」などの開催を予定しており、大会の成功と支部事業を通じて次世代を担う人材発掘及び育成が急務と考えております。

特に、各県ごとに段位認定会開催の支援に努めてまいります。

また、魅力ある事業として会員交流と技術力向上のための研修会やフェスティバル等の事業を推進して組織拡大に努めてまいりたいので皆様のご協力をお願い申し上げます。

首都圏支部長 腰原弘敏

正会員及び各会員の皆様方、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、首都圏支部として初めて五段位認定会を開催いたしました。会場の関係から技能審査を台東区浅草日本食品衛生協会の講堂をお借りし、また意見発表会場を全麵協研修センターで行う2会場を使用した変則的な認定会でしたが会員皆様のご協力により何事もなく無事成功裡に終了することが出来ました。

これもひとえに皆様方のご協力の賜物と感謝し、スタッフを担当された皆様には大変感謝申し上げます。

これまでのところ計画された事業は様々な工夫を凝らして対応し無事に進行しております。ご対応いただいた皆様方には改めまして深く感謝申し上げます。

今年は干支にちなみ粘り強く巳年に相応しい新たな飛躍の年として細心の注意を払いながら各種事業に取り組んでまいりたいと考えております。

5月には平塚で第5回そば大学in平塚が開催されます。皆様の益々のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

今後も明るく楽しい開かれた全麵協、首都圏支部を創り上げていくために、皆様のお知恵とお力を賜りたくよろしくお願いいたします。

そばを広く、深く学び、自分づくり、仲間づくり、地域づくりに活かすことがそば道を歩む私共の使命であり、皆の知恵と力を結集して様々な難局を乗り越えていくべきであることを、全麵協及び首都圏支部正会員が理解し更に飛躍の年になりますように祈っております。

皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

中日本支部長 田中崇喜

あけましておめでとうございます。
新年のご挨拶として、「Let's Enjoy Soba Life」という目標のもと、令和6年の活動を振り返り、さらに令和7年への展望をお話しさせていただきます。

昨年、中日本支部では、メールやLINEによる情報ネットワークの構築を行いました。これにより事務処理の効率化はもとより、個人会員への迅速で正確な情報提供と、お一人お一人のご意見やご提案を集約することが容易になりました。中日本支部が正会員、個人会員と共に歩むための重要な基礎を構築できたと考えています。

そして本年は全麵協のサステナビリティについても議論していきたいと考えております。下記に具体的な支部活動のポイントを提示させていただきます。

支部活動のポイント

- 1 情報ネットワークの更なる充実と積極活用
情報ネットワークを通じた、積極的な情報共有と様々な課題に対して意見集約に取り組み、支部運営に反映させます。
そして機会あるごとに情報ネットワークへの参加意義をお伝えし、参加人数の増加に取り組みます。
- 2 第1回世界手打ちそば名人グランプリin 富山の成功
中日本支部の身の丈に合った内容で、本新規事業の成功に向けて取り組みます。
- 3 段位受験者増加につながる取組みの検討
「初段位受験者をどのようにして増やすか」は全麵協組織のサステナビリティに直結する重要なテーマです。
『楽しいところに人は集る』との支部運営

理念をKey Wordに具体的な取り組みについて議論し、可能なものから実行します。

「そば打ちは高尚な趣味」という言葉には深く共感します。今年も“Let's Enjoy Soba Life”を合言葉に、そば文化のさらなる発展を心から願っております。
その努力と熱意が実を結ぶ年となりますように。

西日本支部長 米田隆一

全国の皆様、西日本支部の皆様、新年あけましておめでとうございます。

令和6年度の西日本支部は大きな事業に恵まれた一年でした。5月には尾道で「そば大学講座」が開催され、全国から多くの方々にお越しいただき、おかげさまで大成功でした。深く感謝申し上げます。

2月には支部では初めての「全国女流名人大会」が、食い倒れの街、天下の台所の大阪市中央卸売市場で開催されます。

多くの挑戦者をお迎えできるように様々な準備を進めているところです。熱戦を楽しみにしております。

令和7年度は、支部では数年ぶりに、大阪では初めての「五段位認定本審査会」が開催されます。

支部役員は勿論の事、支部会員が一丸なって受験者の皆様に喜んでいただける審査会を目指しますので、どうぞよろしく願いいたします。

巳年にちなんで、支部も会員の皆様も、殻を破って、脱皮して、益々発展しましょう！

各支部から

大阪泉北認定会に視覚障害者二段位受験報告

12月7日（土）堺市梅文化会館にて、泉北認定会初二段位の技能審査が行われました。

私たちの倶楽部に所属している、視覚障害者の大谷道弘さんが二段位に挑戦されました。

私は、製麺以外の工程の介助でサポートしました。

大谷さんの緊張が伝わる中、開始前に打合せとイメージトレーニングで確認し、いざスタート。

研ぎすまされた感覚とテンポのいい流れで、制限時間内で終え、普段以上の力を発揮された結果無事に二段位に認定されました。

大谷さんは二十歳の時に、視力を失われましたが、持ち前の明るさと前向きさで人生を歩み、昨年、私たちの倶楽部の先生と出会われ、そば打ちを始めて初段位に認定されていました。

先日、大谷さんは母校の大阪南視覚支援学校に出向き私たちと共に教員、PTAの方々に目隠しをした「アイマスクそば打ち体験」をしていただき盛況でした。

これからも視覚障害者と、そば打ちをつなぐ活動を広げていきます。

また大谷さんの「そば道」挑戦は続き、私たちも全力でサポートしていきます。

(西日本支部 布施そば道場 平松誠司)



第4回そば道 北海道大会 決勝大会開催 報告

11月24日(日)、北海道標津郡中標津町岩谷学園ひがし北海道IT専門学校において、道内5地区の予選で選抜された三段位10名、四段位11名、五段位23名の合計44名が出席して第4回そば道北海道大会決勝大会を開催しました。

開会式は守田支部長の開会挨拶、来賓の中標津町長 西村穰様、全麵協理事長 中谷信一様、岩谷学園本部理事 本部長 折笠 初雄様の皆様から歓迎の挨拶や祝辞を賜りました。

決勝大会の様子は岩谷学園様のご協力により10時から15時30分まで決勝大会をYouTubeで全国にライブ配信が行われ、会場内にも別室が設けられ大会の様子がライブで見られるように、IT技術を駆使した運営が行われました。



開会式



北海道名人杯授与

審査は審査員長 山本良明全麵協副理事長、他4名の審査員による厳正な審査が行われた結果、各段位の最優秀賞、優秀賞、敢闘賞の受賞者は以下の通り決定しました。また、出場者の中から、そば打ち技術が最も優れた方に与えられる「令和6年度そば道北海道名人」に西村光大さんが選出され、中谷理事長より理事長杯が授与されました。

三段位	最優秀賞	関部健治(北の郷そば工房)
	優秀賞	青山 斉(十勝蕎麦倶楽部)
	敢闘賞	中秋勝広(北海道蕎麦会)
四段位	最優秀賞	尾上 結(中標津手打ちそばささ藪学校)
	優秀賞	菅野敦子(旭川手打ちそば笑錬会)
	敢闘賞	高橋富士子(幌加内そばスクール蕎麦庵)
五段位	最優秀賞	西村光大(幌加内そば工房坂本)
	優秀賞	小島裕樹(北海道蕎麦会)
	敢闘賞	有川美紀子(苫小牧手打ちそば愛好会)

*令和6年度そば道北海道名人 西村光大
(幌加内そば工房坂本)

(北海道支部 地域振興部長 奥村周二)

皆様からの情報提供をお待ちしています。

全麵協ニュースフラッシュ編集グループ

編集責任者 原 秀夫

編集主任 入江一統

チーム員 横田節子 赤羽章司